

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立鬼怒中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 218人 国語B 218人

② 数学A 219人 数学B 218人

5 留意事項

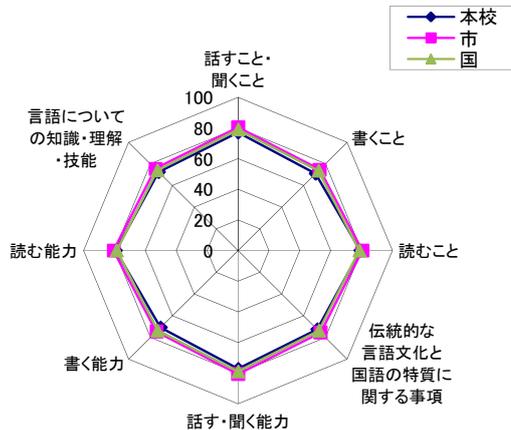
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立鬼怒中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

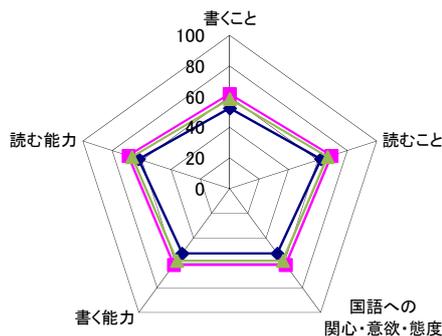
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.1	80.5	78.9
	書くこと	71.0	74.7	73.7
	読むこと	79.2	80.5	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.6	75.6	73.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	77.1	80.5	78.9
	書く能力	71.0	74.7	73.7
	読む能力	79.2	80.5	78.6
	言語についての知識・理解・技能	72.6	75.6	73.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	52.4	61.6	58.3
	読むこと	62.1	69.1	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	52.4	61.6	58.3
	話す・聞く能力			
	書く能力	52.4	61.6	58.3
	読む能力	62.1	69.1	66.5
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

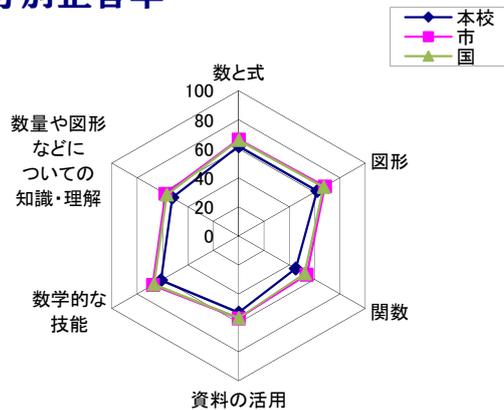
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「聞き手の立場を想定し、話の中心的部分と付加的な部分との関係に注意して話す」という点では正答率が県平均・全国平均に近い。 ●「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」という設問では正答率が低い。	・テーマに応じた適切な資料を用い話す授業を多く取り入れ、自己評価や相互評価を行うことで、資料を効果的に用いながら目的に合った話ができるように改善する。
書くこと	○「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」という点では、県平均・全国平均にかなり近い。 ●「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」の正答率は県平均・全国平均より5ポイント以上低い。	・自分の考えを相手にきちんと伝えられるように、内容に合った材料を選んで根拠を明らかにして書く学習を継続して行う。
読むこと	平均正答率は全国平均よりやや高い。 ○「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」という点では正答率が県平均・全国平均よりおよそ3ポイント高い。 ●「文章の構成や展開について自分の考えを持つ」という設問では正答率はやや低い。	・文章の内容を考えたとき、構成や展開に注目して筆者の考えを理解する授業を設けることで、文章の構成や展開について自分の考えを持てるようにさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「文脈に即して漢字を正しく読む」という点では正答率が県平均・全国平均より高い。 ●「文脈に即して漢字を正しく書く」「文の成分の照応について理解する」という設問では正答率が県平均・全国平均より低い。	・漢字については、今後も漢字テストを継続的に行うことで、読む力だけではなく書く力も身に付けさせる。 ・文法の学習で問題演習を充分に行うだけでなく、読むことの授業においても文法を取り上げることで、文法を正しく理解する力を身に付けさせる。

宇都宮市立鬼怒中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

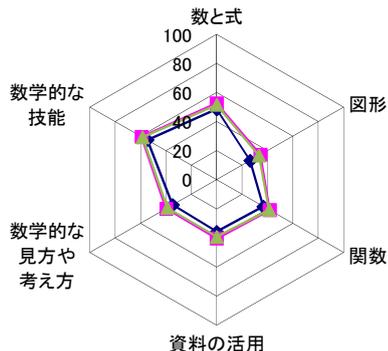
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	61.8	66.4	65.9
	図形	62.0	68.1	67.1
	関数	45.1	53.7	52.0
	資料の活用	52.9	56.9	56.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	61.3	67.8	66.9
	数量や図形などについての知識・理解	52.5	57.8	56.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	48.6	52.7	51.5
	図形	26.4	34.5	33.3
	関数	36.8	41.9	41.4
	資料の活用	35.8	40.5	39.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	34.7	39.9	38.9
	数学的な技能	54.7	59.2	58.5
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○ある基準に対して反対の方向や性質を持った数量が正負の数で表わされることの問題の正答率は、県平均、全国平均を上回った。</p> <p>●正負の加法の計算や文字式の加法減法の計算について、正答率は80%を超えているが、県平均、全国平均よりもやや低かった。また、分数小数の乗法の計算については、全国平均よりも、8.5%下回っている。</p>	<p>正負の数や文字式の計算、一次方程式、連立方程式の解き方や等式の変形など、計算の仕方を学び、ミスを減らすよう繰り返し練習させる。</p>
図形	<p>○垂線の作図、対称移動した図形の作図の問題については、正答率が県平均全国平均を上回った。</p> <p>●平行線と角、多角形の外角の問題、図形の証明関係の問題について、県平均、全国平均を下回っている。また、空間図形の理解にも課題が見られる。</p>	<p>平行線と角、多角形の外角の意味を理解させ、問題を解かせる。図形の証明の関しては、パターンを覚えさせ、問題を解かせたい。また、空間図形の分野では、具体的なものを使って、視覚に訴えるなど、丁寧に扱っていく。</p>
関数	<p>○比例の表をつくる問題では、正答率が、県平均、全国平均には届かなかったが、85%以上の正答率であった。反比例を表す事象を選ぶ問題では、県平均全国平均とほぼ同じであった。</p> <p>●一次関数の変域の問題や、具体的な事象における一次関数の関係を式に表す問題では、正答率が全国平均より10%下回っている。</p>	<p>関数に関する苦手意識を持つ生徒が多いが、まずは比例と反比例、一次関数の意味を、表と式、グラフの関係を関連付けて理解させる。また、表と式、グラフを利用して解く問題のパターンを覚えさせる。</p>
資料の活用	<p>○測定値が与えられた場面において近似値と誤差の意味を理解しているかどうかの問題では、県平均全国平均を上回っている。</p> <p>●資料から最頻値を読み取る問題では、正答率が9.5%下回っている。</p>	<p>代表値(平均値、中央値、最頻値)の意味を理解させ問題を解かせたい。また、確率の分野では、確率の意味を理解させ、樹形図や表を書かせて、丁寧に問題を解かせる。</p>

宇都宮市立鬼怒中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しているか」の回答の肯定割合は、全国平均より高く、栃木平均とほぼ同じである。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」と回答した生徒の割合は44.1%で、全国平均に比べ9ポイント下回っている。教科や学級活動など学校生活の多くの場面で、話し合い発表しあう機会を設け、自分の考えや意見を述べることに挑戦させていきたい。また、相手の考えを最後まで聞き自分の考えをしっかりと身につけさせ、自信をもって発表できる雰囲気をつくっていく。

○「家の手伝いをしている。」と答えた生徒の肯定割合は69.9%で、全国平均や栃木平均と比べて高い。

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしているか。」の回答の肯定割合は53.9%と全国平均や栃木平均と比べて高い。また、平日、休日ともに家庭での学習を「全くしない」と回答した生徒が全国平均より下回っている。自主学习ノートの提出を入学時から毎日呼びかけ、取り組んできた成果が表れていると思われる。今後も、内容の充実も含めて指導していく。

●「地域や社会に起こっている問題や出来事に関心がある。」に肯定的に回答した生徒の割合は約70%で全国より上回っている。それに対し、「今住んでいる地域の行事に参加している。」と回答した生徒は7.8%、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。」と回答した生徒は42.5%と全国より下回っている。地域や社会のことに関心はあるが、実際の行事やボランティアに積極的には参加しない傾向がある。生徒会などを通して、全校生徒にボランティアや地域活動について知らせるとともに参加を呼びかけ、地域での活動に目を向けさせる。

●「学校の規則を守っているか。」に「当てはまる」と答えた生徒は45.2%で、全国や県の平均より15～16ポイント低い。「友達との約束を守る。」に肯定的に答えた生徒は、全国や県と同等である。身の回りの人間関係は大切にできているのに対して、学校など社会のルールを守ろうという意識が低い傾向が見られる。道徳の授業などを通して、遵法精神や規範意識を育てていく。